

宮崎県内初の公立夜間中学について

～学ぶ喜び・つながる喜び・生きていく喜び～

1 はじめに

本市は、「日本のはなた」宮崎県の日向灘に面した南東部に位置し、人口は約40万です。「太陽と緑」に象徴され、南北約36kmに渡る海岸線を有し、太平洋に沿って流れる黒潮によって温暖な気候風土に恵まれ、亜熱帯植物の繁殖する青島の日南海岸に連なる風光や美しい松の大樹海の一つ葉海浜は南国的色彩に富んでいます。また、海幸山幸に恵まれ、宮崎牛や伊勢海老、うなぎ、完熟マンゴーなど数多くの特産品があり、食の宝庫となっています。

さらに、本市は令和6年度に市制100周年を迎えました。先人のたゆまぬ努力と知恵に培われ、豊かな風土に育まれてきた産業や歴史、文化などの価値を高め、来るべき新時代にふさわしい未来を切り拓いていこうとしています。

その第一歩として、「力強い経済への挑戦」「自立し、支えあう社会づくり」「未来のまちづくり」を重点プロジェクトとして第六次宮崎市総合計画を策定しました。基本計画においては、「『こどもまんなか社会』の推進」や主体的に考え行動する力を育む教育と多様な学習機会の確保など「質の高い教育の推進」に取り組んでいます。

2 夜間中学開校までの経緯

宮崎市立ひなた中学校は、令和6年4月22日に県内初の公立夜間中学として宮崎市教育情報研修センターの施設内に開校し、現在2年目を迎えてます。令和7年12月現在、在籍する生徒は24名で、国籍を問わず10

代から80代までの幅広い世代の生徒が通っています。また、令和7年度には昼間部として学びの多様化学校が開校し、宮崎市立ひなた中学校は昼間部、夜間部を併設する学校となりました。

(1) 導入の背景

公立夜間中学には、義務教育を修了しないまま学齢期を経過した方や、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方、外国籍の方などに、義務教育を受ける機会を実質的に保障する役割が期待されています。

平成28年12月には「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が公布され、地方公共団体は、夜間中学における就学機会の提供等の必要な措置を講ずることが義務付けられました。

当時、宮崎県内には夜間中学は設置されておらず、県教育委員会において夜間中学の設置検討をする中で、県内市町村教育委員会の学校教育主管課を対象にした「公立夜間中学等の設置に向けた検討会」において、本市を設置主体とすることが決定されました。

令和3年8月に県から本市に正式な依頼があり、同年9月、本市が設置主体となって夜間中学を設置することを決定しました。

(2) 導入の経緯

令和4年度に市教育委員会内に夜間中学設置準備室を設置し、4月から5月にかけて「公立夜間中学に関するアンケート」を行い、ニーズを把握するとともに、外部委員8名からなる宮崎市公立夜間中学設置検討委員会（以

下、「検討委員会」という)を設置しました。

検討委員会委員による3回の検討及びパブリックコメントを経て、開校時期や設置場所、入学対象者等について定めた「宮崎市公立夜間中学設置基本計画」を令和5年1月に策定しました。

また、夜間中学に通う生徒が希望と誇りをもち、市民に広く認知される学校となるよう学校名を公募し、88件あった応募の中から、学校名を「宮崎市立ひなた中学校」とすることを決定しました。

令和5年度には、施設改修・整備や規則改正等を進めるとともに、生徒募集を始めました。

生徒募集では、入学希望者説明会を8月から9月にかけて3回行い、説明会には県内各地から57名の参加がありました。

最終的に21名の出願があり、面談・審査等を経る中で4名が辞退し、ひなた中学校は17名でのスタートとなりました。

ます。

そこで、ひなた中学校では、生徒の「学ぶ喜び」「つながる喜び」「生きていく喜び」を実現させるべく、図1のような目標等を掲げて運営しています。

「自己存在感」「自己決定の場」「共感的な人間関係」「安全・安心な風土」をベースに、「多様性の尊重」「生きていく希望」「生き方への誇り」そして、「安心して学べる・過ごせる」をキーワードとし、日常的にホームルーム等で意識化したり、関連した授業や活動を展開したりしています。

特に、ひなた中学校では「自己選択・自己決定」の場の設定に重きを置いています。

例えば、ホームルームの司会は、教卓での司会、自席での司会、あるいは自席での挨拶号令のみを自己選択します。初めは自席での挨拶号令のみを選択した生徒が、次第に堂々と教卓での司会を務められるようになることもあります。これは、自分への自信が育まれていることの表れであり、人前で表現することへの苦手意識を克服しつつある姿であると捉えています。

3 宮崎市立ひなた中学校の取組

(1) 学校運営計画

前述のとおり、現在の生徒数は、定員約30名に対し24名です。年齢の内訳は、10代が5名、20代4名、30代3名、40代6名、50代2名、60代1名、70代2名、そして80代が1名です。働きながら学んでいる生徒や就労に向けて準備している生徒、すでに退職している生徒など様々ですが、皆、ひなた中学校での学びを通して自分の生活や人生をより良くしようという思いを抱いてい

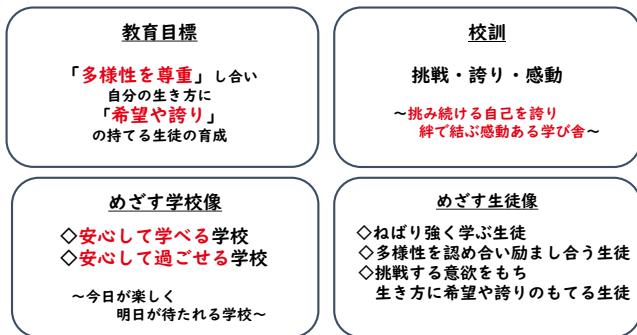


図1

(2) 指導の実際

ひなた中学校において、最も生徒に配慮している事項は、生徒個々の違い(多様性)です。入学動機や目標、学力、就労状況、交通手段、心身の状況、特別支援教育の視点での配慮、ソーシャルスキル、家族関係、国籍、進学の意向等、その全てに配慮する必要があります。その対応として、次のような実践を行っています。

① 特別の教育課程の編成

5 教科別時間配当 (3学年共通)

	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健	技術	家庭	道徳	学活	総合	計
週	3	3	3	3	3	1	1	1	0.5	0.5	1	1	20	
年間	105	105	105	105	105	35	35	35	17.5	17.5	1	1	700	

就労状況等により学習に十分専念することが困難な生徒も想定されたことから、限られた時間において義務教育の目的・目標を達成させるために、年間700時間で教

育課程を編成しています。一単位の授業時間を40分とし、1日4時間（コマ）の授業を組んでいます。

② 校時程の工夫

就労している生徒も多いため、17時30分を1校時の授業開始時刻に設定しています。2校時終了後、軽食をとれるように20分間の休憩時間を設けています。

0校時	16:30 – 17:15	16:00– 学習可
登校	17:25 –	
出席確認 授業準備	17:25 – 17:30	
1校時	17:30 – 18:10	
2校時	18:20 – 19:00	
休憩	19:00 – 19:20	軽食
HR	19:20 – 19:30	
3校時	19:30 – 20:10	
4校時	20:20 – 21:00	
下校	21:00 – 21:10	整理整頓

③ チーム担任制の導入

各学年に2~3名の複数の担任を配置し、チームによるきめ細かなサポートが充実する体制を整えています。

④ コース制の授業展開

初年度は学年制で授業を行っていましたが、2年目の令和7年度からは、学力差や習熟度に配慮し、コース制での授業を提供しています。コースは、主に中学1年生の内容を学ぶ1stコース、中学2年生の内容を学ぶ2ndコース、そして中学3年生の内容を学ぶ3rdコースの基本的には3つとなります。1stコースには、別途、小学校段階からの学び直しを含めた基礎的な内容をフォローするコースを設け、個に応じた丁寧な学び直しができる環境を整えています。

ひなた中学校は、3年間での卒業を基本にしながら、

最大6年間在籍することができます。学年は1年ごとに進級し、3年目は3年生になりますが、授業のコースに関しては、複数年同じコースを選べるようにしています。つまり、1stステージを3年間繰り返すこともできます。これは履修主義ではなく習得主義に重きを置いた運営で、夜間中学ならではの取組であると言えます。

⑤ ティームティーチング(TT)による学習指導

各授業に2人目の授業者(T2)や、必要に応じてT3を配置し、習熟度に合わせた側面的なサポートを行っています。T2、T3は保有する教科の免許とは関係なく、教員全員で担うようにしています。また、数学等の習熟度に差がある教科に関しては、T3が基礎の学び直しの必要な生徒に対し丁寧に個別指導を行っています。

⑥ 日本語指導

日本語指導が必要な生徒には、日本語指導支援員が週3時間、日本語指導を行っています。就労や家庭の事情で毎回の出席が困難な生徒にはオンラインでの支援も行っています。

⑦ ICT機器の有効活用

生徒一人一人にタブレットを貸与しており、生徒は「ロイロノート(授業支援ソフト)」や「キュビナ(AI型ドリル)」等を活用しながら学習を進めています。

授業に限らず文化発表会や保健だより等の配信、アンケート等にも活用し、年代に関係なく機器を操作できるようになっています。

⑧ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用

宮崎県からスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが1名ずつ配置されており、週に1日、相談活動・支援を行っています。メンタル面の相談はもちろん、福祉的サポートや就労相談も行える体制を整えています。

⑨ ホームルームの工夫

前述した生徒による司会の行い方の工夫とともに、教員が輪番でプレゼンテーションを行っています。教科の学習に関連したものや社会の仕組み・出来事、趣味の紹介等、幅広いトピックを取り上げ、生徒が、学習や社会にさらに関心をもったり、多様な価値観に触れたりできる機会を設けています。

また、教員から心を開くことにより、生徒と教員との距離が近くなり、学習や相談支援がしやすくなるといったメリットも期待しています。

⑩ 生活のきまりの設定

容儀服装に関する校則はなく、当然制服もありません。登校手段も徒歩から自家用車まで様々です。校則として掲げているのは、欠席や遅刻等の連絡、迷惑行為の禁止、校内での飲酒の禁止、校内での写真・動画撮影に関する規制等で、学校生活における生徒一人一人の「安心・安全」を保障するための必要最低限のルールを設けています。

⑪ 経済的負担への配慮

生徒の経済的負担に配慮し、年度初めの副教材の一括購入や副教材費の徴収は行っていません。保険料や、授業で必要な教材等のうち、どうしても購入が必要なものだけ都度徴収しています。

⑫ テストや評価、通知表の工夫

生徒の学習評価は、個人内評価を重視し、定期テストは実施せず、日常の授業における評価と、各教科担当者の判断で実施する単元テストや小テストをもとに行っています。

生徒へのフィードバックは、5段階評定や観点別評価ではなく、学校独自の通知表を基に文章表記で行っています。通知表を配付すると、生徒は皆、自分の学習状況を食い入るように読み込んでいます。教師から一人一

人への成長を期待した愛情たっぷりの文章に励まされているようです。

⑬ 学び直しを決意した生徒への敬意

ひなた中学校の教職員は、様々な背景をもちながら夜間中学で学ぶことを決断された生徒に敬意をもって接することを大切にしています。その1つとして、教職員は自身に「先生」という呼称は使わず、必ず「私」を使うようにしています。

(3) 成果と課題

先日、「ひなたチャレンジフェス」と題して、文化発表会を行いました。生徒それぞれが探究課題を設定し、その活動状況を発表する場でした。実行委員が主体的に運営し、各生徒が思い思いの表現方法で探究活動について自己表現を行いました。2年目になる今回のフェスでは、発表の場を楽しみながら堂々と発表する姿が見られ、発表者にとっても、教職員にとっても充実した時間になりました。

生徒自ら主体的に運営する姿、温かい絆のもとで「失敗しても大丈夫」という安心感のある雰囲気、学びが確かに身に付いてきているという自信、人とつながる喜びを感じさせるようなキーボードの合奏、さらに、習字や陶芸などの美術作品等、形に残る成果物の展示、どれもがひなた中学校での学びの成果だと感じました。そこには、目指す生徒像にある「粘り強く学ぶ」姿が、まさに体現していました。

課題としては、生徒募集の問題があります。令和2年の国勢調査によると、宮崎県には未就学者が約800人、最終学歴が小学校の方が、約11,000人おられます。これに、不登校等で思い通り学べずに学齢期を過ぎた方々を入れると相当な数になります。この方々に夜間中学の存在を知ってもらうこと、ひなた中学校の門をたたいてもらうこと、これが大きな課題です。ひなた中学校という夜間中学の存在を知ってもらえるよう市教育委員会を中心に尽力しているところです。誰も取り残すことなく、

必要な方々に必要な支援が届くよう、市教育委員会とひなた中学校が一緒になって、今後も広報活動に力を注ぎたいと考えています。

4 おわりに

ひなた中学校は令和6年度、第1号の卒業生を輩出しました。彼は外国籍の生徒でしたが、日本語学習はもちろん、他の教科学習にも地道に粘り強く取り組み、猛勉強の末、県立高校の合格を果たし、現在高校生として学

生時代を充実させています。今も、ひなた中学校で培った「挑戦・誇り・感動」の校訓の精神を胸に、立派に高校生活を送っているようです。

同様に、在校生も「学ぶ喜び・つながる喜び・生きていく喜び」を日々感じながら学び続けています。

卒業後に、自分の生き方に希望や誇りをもち、力強く自分の人生を歩んでいけるよう、生徒一人一人に伴走し続けていきたいと考えています。

最後に、ある生徒が集会の中で発表した言葉を記して本シリーズを閉じたいと思います。

「二学期の抱負」（一部抜粋）

私のこれからの中の目標は、「今の自分なりの歩みを止めない。」ということです。ゆっくりでもいい。自分のペースで焦らず前へ進んでいきたいです。小学校、中学校と、なかなか学校に足が向かなかった頃、私には時間が止まっているように感じられたこともありました。

～略～

私は、携帯電話の画面を眺めながら「未来に繋がる何か」を探していました。そんな中で5年前私はある存在を知りました。それが「夜間中学校」です。その頃、まだ宮崎に夜間中学校は存在しておらず、「少しくらい遠くても、一人暮らしをしてでも通いたい。」と思い、詳しく調べ始めました。「学びたい!」「通いたい!」「変わりたい!」そんな自分の気持ちに気づくことができた瞬間でした。

しかし、そうは思いながらも、なかなか踏み切れず日々を過ごしていたところに、令和5年、宮崎市に夜間中学校ができるのを知ったのです。これは、神様がくれたチャンスだと思いました。今、私は、「分かる」「できるようになる」ということが楽しくてたまりません。毎日の授業はもちろん、ずっと苦手だった数学も、始業前の「0校時」を使って頑張っているうちに、できることが増えていき、どんどんつながって広がっていくのが分かりま

した。

ただ、時に夢中になって、いろいろなことを頑張り過ぎてしまい、気付かないうちに「少し疲れたなあ。」と感じることもあります。これからは、そこをうまくコントロールしながら休息をとったり、時間の使い方を考えていったりすることも必要だなと考えています。

これまで、ずいぶん遠回りをしてきたようにも思いますが、少しずつ前に進んでいる今の私のことを、自分自身が一番応援しています。

今思うと、小さなことではあるけれど家でやり続けていたことは、今につながっていて、止まっていると感じていた時間は、実はずっと動いていた…動かしていた…のかもしれませんと感じています。

「その頃の自分がいるから、今の自分がいる。」「無駄なことは1つもない。」

そう信じて、この流れを止めないために、私は歩みを止めず、ゆっくりとこれからも前へ進んでいきたいと思っています。

